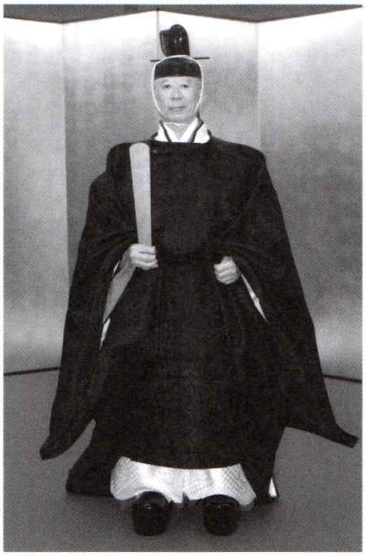
会報 峠 とうげ
河井継之助記念館
友の会会報
第24号
2018.11
〈編集・発行〉
河井継之助記念館
新潟県長岡市長町1丁目1675-1
〒940-0053
Tel.0258-30-1525
Fax.0258-30-1526
頒布価：50円（送料別）
〈編集人〉
荒木法子　恩田富太
堀口晴夫　水野秀雄
渡邊静江　友の会事務局
〈構成・印刷〉
高速印刷株式会社

長岡開府四〇〇年、戊辰一五〇年によせて

旧越後長岡藩牧野家十七代当主　牧野　忠昌



初に会津若松城を見学、小高い山の上にある広大な会津藩主松平家墓所、白虎隊十九士の墓、そして最も関係の深い門田町飯寺にある本光寺、「長岡藩士殉節之碑」近くの山本帯刀隊四十三名が眠っているお墓、それぞれの墓所にお参りすることが出来た。ほっと一息ついていた時、本光寺近くにお住いだと思われる老人に声をかけられ、「何をしに来たのか」と尋ねられた。「長岡藩士のお墓参りに来た」と答えたら「よく来なさった」と初対面の私たちを自宅に案内し座敷に通された。会津若松の地酒「栄川」と「こごみ」を勧められ、話もはずみすっかりご馳走になってしまった。初めて食したこごみは大変美味しく、後にすっかりファンになってしまった。

結婚当初、私は東京都北区の公務員宿舎で生活していた。結婚の翌年、春の雪解けを待って、長岡に関する歴史を勉強するための自動車旅行に出かけた。もちろん温泉を楽しみたい気持ちも十分にあった。

磐梯吾妻スカイラインを走り、会津若松に入った。会津若松は初めて訪れる地で、北越戊辰戦争に関する観光スポットが多くあるなかで、最

その後、只見塩沢にある河井継之助終焉の地を訪れた。河井継之助が息を引き取った茅葺きの矢沢宅でご子孫の方にお目に掛かり、座敷に上げて頂きお参りすると共に遺品とも対面した。矢沢宅の裏にはカタクリが群生し、たくさんの花が咲いており、始めてみた私はピンクの美しい色と形に感動を覚えた。

医王寺にある継之助のお墓にお参りしたあと、昭和三十九年に建設された河井継之助記念館を見学した。その横に昭和十二年有志によって建てられた「河井継之助君終焉之地」（松平恒雄氏揮毫）の石碑があり、裏面には祖母牧野鉈子の名前があった。祖父牧野忠篤は昭和十年に亡くなっているので、祖母がお仲間に入れて頂いたのだと推察した。

その後、旧「河井継之助記念館」は取り壊され、平成五年に新しい記念館が完成した。八月八日の開館式典に只見町からお招きを頂き、継之助子孫代表の小川寿満子様と出席した。小川様はテープカット、私は河井家関係者の根岸様や森様と共にお祝いの久寿玉割りを行った。記念館内には継之助終焉の間が当時のまま移築されていた。大変な作業であり、矢沢家の方も只見町も大きな決断であっただろうと思った。

只見町に新しい記念館が出来てから十三年後の平成十八年十二月二十七日、継之助が生まれ育った長町の屋敷跡に長岡市の河井継之助記念館が誕生した。何といっても長岡市には河井継之助記念館がなくてはならないと思う。羽賀善蔵氏のご自宅であったが、よくご決心して頂いたと思う。羽賀善蔵氏は私が若いころに牧野家の歴史を講演した折、うなずきながら聞いて頂いた。今となっては懐かしい思い出である。

記念館が開館してから十二年が経過し、来館者は全国から訪れ友の会会員も六百名に届くまでになった。継之助の生き方などに共感、感動された方々であろう。今年は長岡開府四〇〇年、戊辰一五〇年を迎えた。河井継之助記念館の新たな発展を期待したいと思っている。

牧野忠昌（まきの ただまさ）

プロフィール

昭和16年12月22日 東京都生まれ（76歳）
昭和18年～45年 京都市左京区永観堂西町に在住
昭和39年3月 近畿大学農学部水産学科卒業
31年間農林水産省水産庁に勤務、この間沖縄開発庁・科学技術庁に出向
平成27年4月 逗子市から長岡市に転居
長岡市立科学博物館・長岡藩主牧野家史料館名誉館長
公益財団法人長岡市米百俵財団理事長
長岡開府四〇〇年記念事業実行委員会顧問
柏友会（旧越後長岡藩藩士会）名誉会長
一般社団法人霞会館会員
公益財団法人こしじ水と緑の会相談役